平成25年1月号

いやしのひととき

千代田日記

～ちよだにっき～

今月のごあいさつ

寒中お見舞い申し上げます。

皆様、つつがなく新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

弊社もおかげさまで３回目の新年を迎えることが出来ました。本年もいろいろな方々に金の魅力、金地金を保有する意義を広めたいと存じます。

さて、今年も金にとって面白い年になると思います。

なぜなら、本気でデフレ脱却、インフレを目指して安倍政権が動き出す年となるからです。

「インフレ」とは、「物の価値が上がり、通貨の価値が下がること。」つまり「金の価値が上がり円の価値が下がる」ことを意味します。インフレヘッジとしていよいよ金が本領発揮するときです。

皆様にとっても今年一年がいい年になることをお祈り申し上げます。

一年で一番寒い季節となります。どうぞお体ご自愛ください。

ご存知ですか？

金座(きんざ)～江戸の金貨鋳造所～

金座とは、江戸幕府において金貨鋳造を行った場所・組織で、現在の日本橋本石町にありました。文禄四(一五九五)年、徳川家康が京都の金匠・後藤庄三郎光次に命じ江戸で小判を鋳造させた時に始まり、江戸幕府成立後は留守居、勘定奉行の支配下に置かれ、江戸本石町に役宅が設置されました。

金座成立後、後藤家は御金改役(ごきんあらためやく)として本石町の金貨の鑑定・検印のみを行い、実際の鋳造は小判師と呼ばれる職人達が行っていました。小判師達は小判座と総称され、役宅周辺に居住していました。また、小判座を統括し御金改役を世襲していた後藤宗家は大判座とも呼ばれました。この金座で鋳造され最終検査に合格した小判は百両単位で包封金とし勘定所に上納されました。

一般的に銀座よりマイナーなイメージのある金座ですが、その日本橋本石町の跡地にあるのが、最近何かと話題の日本銀行本店です。ちなみに建物の設計は東京駅と同じ辰野金吾です。近くに行かれた際は訪れてみるのも良いかもしれません。

暮らしの足し算

保冷剤が「保温剤」に！

生菓子やクール宅配便などに付いてくる保冷剤。夏はバンダナなどに包んで首に巻くと厚さ対策になりました。愛犬の首に巻いてあげた方もいるでしょう。冬場は「保温剤」として活用してみませんか。

保冷剤を自然解凍させてお湯で温めます。ただし熱湯で急激に温めるのは危険です。鍋にかけたりも避けましょう。適度に温まった保冷剤を取り出すと「保温剤」の完成です。電子レンジで温める方法もあります。加熱時間は10～15秒。温めすぎないよう5秒おきくらいに適温をご確認ください。

できあがった「保温剤」を肩や腰などの凝った部分に当てると、お灸のようにじわじわと患部が温まります。使い捨てカイロで温めている人は、その代わりにいかがでしょう。

目の疲れが気になるときは、ぬるめに温めた「保温剤」をまぶたの上にのせておきます。目の疲れが和らぎ、ほっこりとリラックスできますよ。また、お弁当などを短時間保温したいときにも便利です。

保冷剤は美容の面でも意外な使い道があります。日焼けをしてしまったとき、シートパックの上から当てると水分補給と鎮静化が一度にできます。毛穴が気になるときも同じ方法で毛穴がキュッと引きしまります。お料理の場面では葉もの野菜やゆで卵を冷やすときに便利。ボウルに保冷剤を入れ、その中に冷やしたいものを入れましょう。料理家もやっている裏ワザです。

なごみひとさじ

私は、人生そのものを
私が脚本を書いた素敵なお芝居だと思います。
そして、その目的は、
私が私の役を演じることを
最大限に楽しむことです。

――シャーリー・マクレーン（女優）

人生は筋書きのないドラマだと言ったのは誰なのかわかりませんが、言い得て妙な名言です。明日どころか1秒先に何が起こるか、それは誰にもわかりません。けれど、いつどんなことが起ころうとも、その「ドラマ」の脚本を書いたのは自分で、主役は自分だと思えば、人生の味わい方が違ってくるように思います。

脚本家である「私」は、主演の「私」が人生を最大限楽しむお芝居を書きました。あるシーンでは主人公がとてもつらい目に遭います。けれどそのシーンの目的は主人公をただ悲しませることではなく、その悲しみを通じて人生の深みを知っていくこと。俳優としてはやり甲斐のあるシーンでしょう。

私が書いた私のための素敵なお芝居。「私」という役になりきって「私」を演じることを大いに楽しんでいきましょう。つまりは「人生を楽しむ」ということです。

おいしい毎日のススメ

宝塚伝説の裏校訓

明けましておめでとうございます。「今年こそ！」の誓いを新たにする新年。人それぞれの「今年こそ」がありますが、目標を達成するときにネックになるのは内面の弱点でしょう。意志が弱い。悲観的。愚痴が多い……。あの宝塚歌劇団ではそれを「ブス」と呼ぶようです。

実業家・小林一三氏の教えである「清く、正しく、美しく」を忠実に守り続ける宝塚。宝塚音楽学校の規則があまりにも厳しいことはよく知られていますが、その舞台裏に貼られていた「ブスの25箇条」が注目を集めています。いつ、誰が、なんのために貼ったのか誰も知らないそうですが、ある時期から歌劇団の誰もが目にする場所に貼り出された一枚の紙には「ブスの25箇条」と書かれていたそうです。

①笑顔がない
②お礼を言わない
③おいしいと言わない
④目が輝いていない
⑤精気がない
⑥いつも口がへの字の形をしている
⑦自信がない
⑧希望や信念がない
⑨自分がブスであることをしらない
⑩声が小さくイジケている
⑪自分が最も正しいと信じている
⑫グチをこぼす
⑬他人をうらむ
⑭責任転嫁がうまい
⑮いつも周囲が悪いと思っている
⑯他人を嫉妬する
⑰他人につくさない
⑱他人を信じない
⑲謙虚さがなくゴウマンである
⑳人のアドバイスや忠告を受け入れない
㉑なんでもないことにキズつく
㉒悲観的に物事を考える
㉓問題意識を持っていない
㉔存在自体が周囲を暗くする
㉕人生において仕事において意欲がない

この中から「自分にも当てはまると思う項目」を一般女性に聞いたアンケートがあります。ベスト3は「自信がない」「グチをこぼす」「なんでもないことにキズつく」。続いて、「他人をうらむ」「他人にシットする」「希望や信念がない」「目が輝いていない」「精気がない」「笑顔がない」の順でした。

「ブスの25箇条」は「美人の25箇条」に言い換えることができます。

＊自信がない→希望や信念がある
＊グチをこぼす→グチをこぼさない
＊なんでもないことにキズつく→小さなことにクヨクヨしない

「ブスの25箇条」はなかなかキビシイ指摘ですが、自分の中の「ブス」をひとつでも「美人」に替えていくと、「今年こそ」が叶っていくような気がします。

心得の教科書

弔電では「忌み言葉」に注意する

故人が友人の親戚や仕事関係者などの場合、弔電を打とうにも喪主の名前がわからないケースはよくあります。そのときは亡くなった方の名前をフルネームで書き、続いてご遺族様と書いて宛名としましょう。

弔電では喪主と故人の関係により、故人には敬称を使います。たとえば喪主にとって故人が父親の場合は「ご尊父様」、夫の場合は「ご主人様」、妻の場合は「ご令室様」とします。

弔電では「忌み言葉」（宗教的な理由から、または縁起をかつぐ意味で使うのを避ける言葉）には十分注意しましょう。「かえすがえす」「かさねがさね」「ますます」「じゅうじゅう（重々）」などの重ね言葉をはじめ、「さいさん（再三）」「つづく（続く）」「なお（尚）」「ふたたび」などは忌み言葉です。

また、神式やキリスト教式の葬儀の場合、「おうおう（往々）」「くよう（供養）」「じょうぶつ」「めいふく」といった言葉は使わないので気をつけましょう。

「しぬ」「しぼう（死亡）」「せいぞん（生存）」「いきる（生きる）」などの直接的な表現も避けておくのがマナーです。

学び直しの日本語クイズ

正しい言い方はどっち？

【1】愛嬌を振り撒く／愛想を振り撒く

【2】合いの手を入れる／合いの手を打つ

【3】青息吐息／青色吐息

【4】明るみに出る／明るみになる

【5】味わわせる／味あわせる

【1】正解は「愛嬌（あいきょう）を振り撒く」。「愛想（あいそ）」を使うなら「愛想がいい」となります。

【2】正解は「合いの手を入れる」。「合の手」とは、会話・物事の進行の間に別の人が挟む言葉や物事のこと。「相槌（あいづち）を打つ」と混同しやすいので「合いの手を打つ」と勘違いしている人が多いようです。

【3】正解は「青息吐息（あおいきといき）」。困難な状況におかれたときにつくため息のこと。

【4】正解は「明るみに出る」。「明らかになる」と混同しやすいので「明るみになる」と勘違いしている人が多いようです。

【5】正解は「味わわせる」。「味わう」や「味わい」とは言いますが、「味あう」「味あい」とは言いません。